

ブダペスト通信

盛田 常夫



2025 年 No. 31 (9 月 16 日)

最新の世論調査結果



Fidesz 支持率の高 (かさ) 上げを図るオルバン・ヴィクトルと、呆れるマジャル・ピーテル

オルバン首相はクチェの演説で、政府の補助金で運営されている調査機関 Nézőpont Intézet の「Fidesz が Tisza 党を 10 ポイントリード」という付度結果に依拠して、秋に総選挙をやれば、Fidesz は再び 2/3 の議席を確保して政権を継続できると支持者を鼓舞した。

ところが、Nézőpont 以外の世論調査はどこも、Tisza 党の 10 ポイントリードを伝えている。Fidesz 幹部は劣勢をひしひしと感じているが、権力移譲を認めないオルバンは付度結果を信じ（信じようとして）、自ら陣頭指揮を買って支持者を鼓舞している。劣勢にあることはオルバン自身も分かっているが、それを認めるわけにはいかない。権力を失うことはすべての利権の喪失を意味する。Fidesz 統治下で莫大な富を蓄えてきた政治家と周辺実業家への厳しい捜査を公言する Tisza 党の権力奪取は、何かなんでも阻止しなければならない。権力を失うことは政治家オルバンの死を意味する。だから、Tisza 党の躍進を止めるために、大将が表に出て、形振り構わぬ Tisza 党批判を展開している。「最後の悪あがき」とはこのことだ。

付度が蔓延する独裁政治

世論調査機関が与党に付度する結果を公表するのは調査機関としての自殺行為である。Nézőpont はブダペスト市長選挙でも、与党候補が 10 ポイントリードと調査結果を発表したが、選挙結果は真逆だった。調査と結果が 15 ポイントあるいは 20 ポイントも異なるのは尋常ではない。Nézőpont は調査機関というより、政府広報機関に墮している。道徳的な退廃である。

同じことは大学でも起きている。各大学は政府の補助金の削減を恐れて、政府の施策を批判する言動や施策とは相容れない主張や研究にたいして非常敏感になっている。Pride 行進の時期にパズマーニイ大学の二人の心理学研究者は、「家族においては夫婦の性別よりも、子供にたいする愛情がより重要である」という趣旨の論文（[hvg360: Egy keresztény szellemiségű egyetem oktatóiként és pszichológusként valljuk: minden szeretetre épülő kapcsolat egyenértékű](#)）を週刊経済紙 HVG に投稿した。この投稿にたいして、パズマーニイ大学の当該学部長は倫理審査委員会を立ち上げ、投稿者に戒告処分を下し、キリスト教方針にもとづく大学の理念を再教育する措置をとった。これにたいして、2名の研究者は辞職することになった。

以前にも、HVG での対談でコルナイ・ヤーノシュとロシュタ・ミクローシュが、「現政府は反民主主義だ」と述べたことを理由に、コルヴィヌス大学の所属長はロシュタに退職勧告を行った。ロシュタはそれを拒否して裁判に訴えた。ロシュタは大学に残ることになったが、ロシュタが学科長を務めていた比較経済体制学科は廃止となり、給与の引上げが止められた。

他方、ミシュコルツ大学付属研究所がマジダル・ピーテルの前妻ヴァルガ・ユーディット（法務大臣を歴任）にたいして、月額 200 万 Ft を超える客員研究員報酬を払っていることが暴露されたが、これは機密保持にたいする政権からヴァルガへの報酬である。大学にこれほどの給与を払う余裕などないが、政府がミシュコルツ大学に特別予算としてヴァルガの報酬を渡している。機密報酬を提供する Fidesz 政権だけでなく、何の恥じらいもなくそれを受け取るヴァルガ・ユーディットも含め、Fidesz 体制における市民社会的モラルの崩壊を教えている。

独裁政権が各種の忖度行動を惹き起こし、政権が大学を政治的に利用するのは、一方の当事者だけでなく、他方の当事者の道徳的退廃である。正常な市民社会の倫理や規範が崩れている。しかも、それを実行している人々は自らのモラルの退廃を意識することすらできない。

各種調査機関の結果

さて、忖度機関の調査結果を信じたいオルバンだが、Nézőpont 以外の調査機関は9月初めの世論調査結果を発表した。夏の間、Fidesz はオルバン陣頭指揮のもと、公金を使って、Fidesz 支持者の結束と反 Tisza の膨大なキャンペーンを張ったので、その効果が注目された。しかし、調査結果はほとんど大勢に影響を与えていない。オルバンがどれほど鼻息を荒くして入れ込んでも、Fidesz 離れは止まらない。辛うじて、年金生活者と小規模町村で Tisza 党を上回っているが、それ以外はすべて Tisza 党に押されている。

Publicus の9月8日-12日の調査によれば、Tisza 党は Fidesz を 37%対 31%（投票に行くと回答した人々）、46%対 37%（選択政党があると答えた人々）の結果を公表している。もしここで選挙が行われた場合、Tisza, Fidesz 以外に、DK と Mi Hazánk が議席を得ると予想している。全回答者のうち、40%が政権交代を予想し、37%が Fidesz の継続を予想している。ここはかなり接近している。

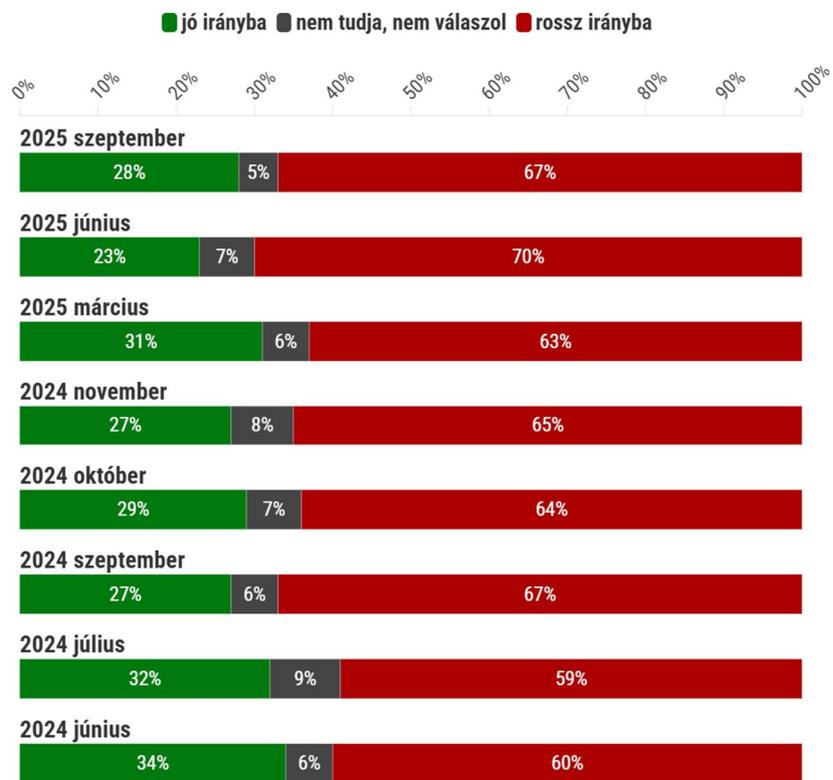
一番信頼されている Medián の9月第1週の調査によれば、全有権者の37%が Tisza、30%が Fidesz 支持となっているが、必ず投票に行くと答えた人々の間では、Tisza51%、Fidesz38%と大差がついている。意識的な投票者は Tisza 党を選ぶという結果である。

IDEA Intézet の調査結果は Tisza48%、Fidesz39%、Závecz Research のそれは Tisza33% (260万票)、Fidesz28% (220万票)、Republikon Intézet の8月末の調査結果は Tisza30%、Fidesz26%と差が縮まっている。

Medián の調査結果(詳細)

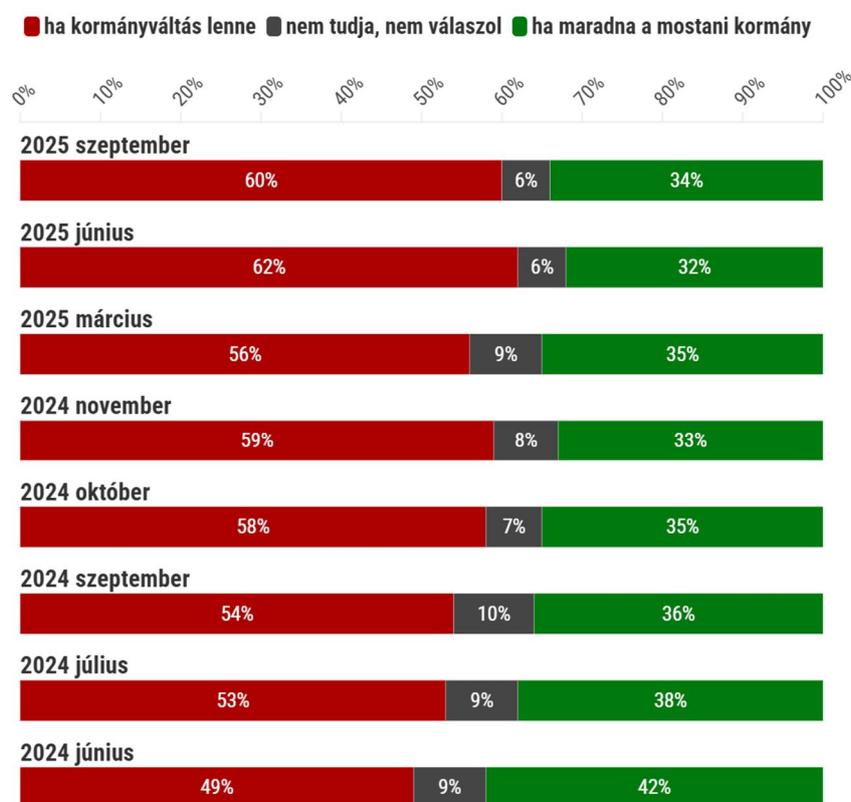
HVG (9月11日号) はメディアンの世論調査結果を詳しく紹介している。これに沿って、結果を見てみよう。

図1 国は良い方向に向かっているか(緑)、それとも悪い方向に向かっているか(赤)



黒色は無回答あるいは、分からないと答えた人

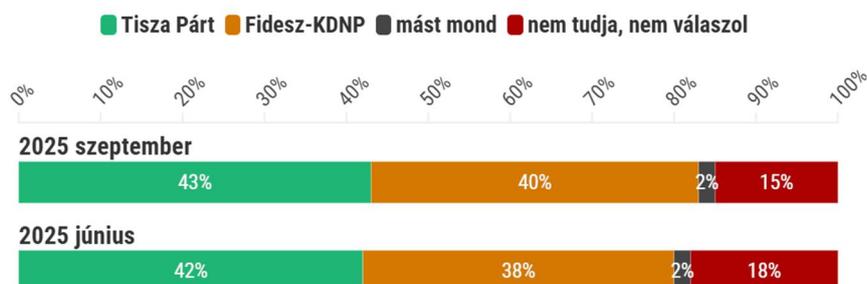
図2 政権交代を望むか(赤)、それとも否か(緑)



Forrás: Medián 黒色は無回答あるいは、分からないと答えた人

上記の二つの図から分かることは、2/3に近い有権者が政権交代を望んでいる。これが現在の国民の政治的雰囲気や世論を反映している。Fideszの長期政権に批判的な有権者が多い。6割もの人々が政権交代を望んでいる結果は、非常に重い。

図3 次の総選挙でどの政党が勝利すると思うか(国民予想)

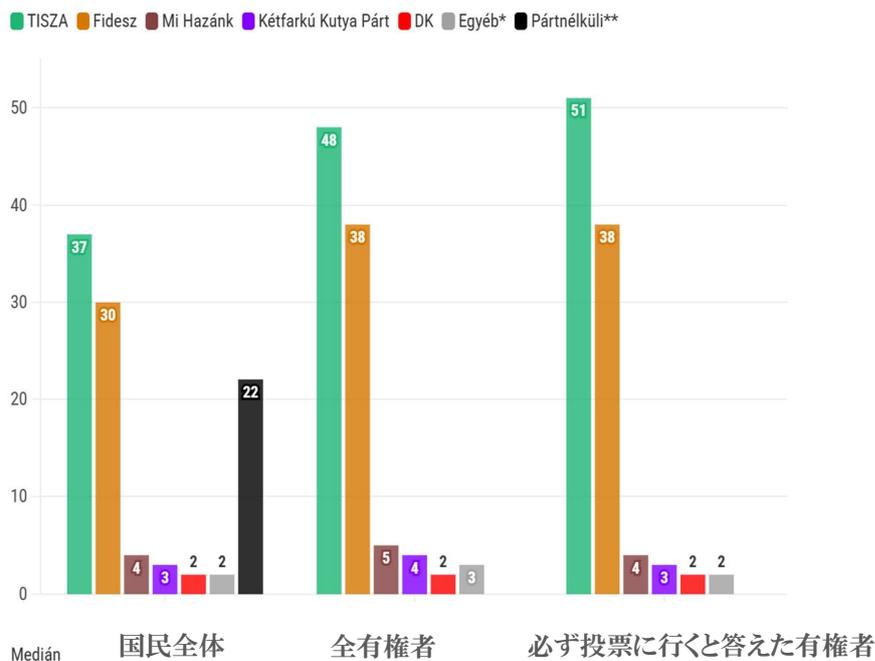


Forrás: Medián

Tisza 勝利(緑)、Fidesz 勝利(橙)、回答なし(赤)、黒(別の政党)

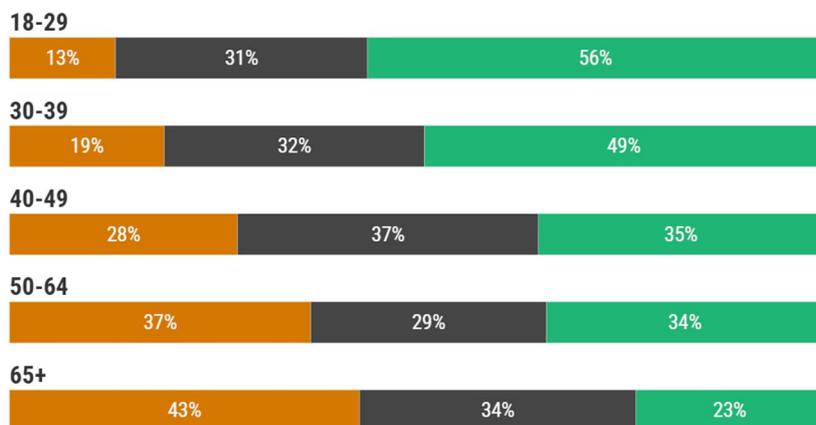
有権者が望む方向と政権交代の実現度予想は、やや相反している。国民は Fidesz が膨大な公金を費やして、がむしゃらに選挙勝利に向かうだろうと予想している。だから、この数値はかなり接近している。

図 4 次の総選挙の比例区でどの政党に投票するか



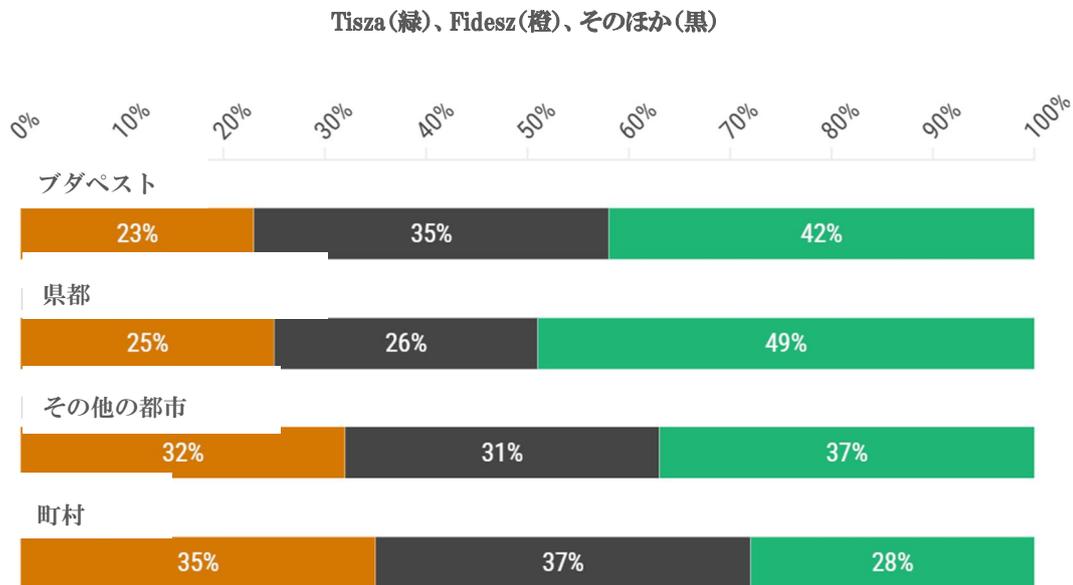
有権者のうち、必ず投票すると答えた人で見ると、Tisza 党が Fidesz をかなり引き離している。投票行動を選択する人々の意識的行動が強くみられる数値である。年齢別の分布は次のようになっている。

図 5 年齢別政党支持率 (緑が Tisza、橙が Fidesz、黒はその他の政党)



50歳以下の若年層や実年層は圧倒的に Tisza 党を支持し、年金生活者は圧倒的に Fidesz を支持している。

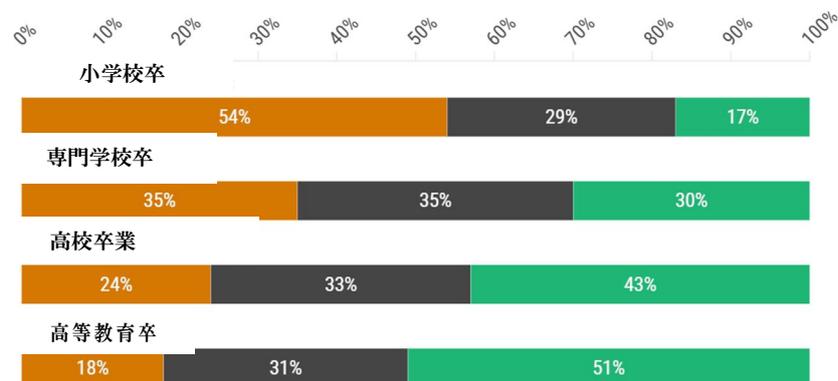
図 6 大都市、中都市、町村別の支持率



Forrás: Medián

都市と地方の政党支持率を見ると、ブダペストでは Tisza 党が圧倒しているが、県都では二つの政党の支持率はさらに広がっている。中小の都市では二つの政党の支持率は拮抗しており、町村では Fidesz が Tisza を上回っている。マジダル・ピーテルは地方遊説を重視しており、支持率の差は縮まっている。

図 7 学歴別支持率 (緑が Tisza、橙が Fidesz、黒がその他)



Forrás: Medián

低学歴の有権者ほど Fidesz を支持し、高学歴になるにつれて Tisza の支持率が上がっている。